

くらし

医療・健康

妊娠中の母親から胎児に感染する母子感染の中で、最近、先天性サイトメガロウイルス症が問題視されている。衛生環境が良くなったせいか、妊娠時に初めて感染する女性が増えているからだが、感染経路として保育園などで感染した第一子から母親に感染するケースが多いと指摘されている。

先天性サイトメガロウイルス症

かねてこの問題に取り組んでいる帝京平成看護短大(千葉県)の川名尚学長は、現状を次のように話す。
「私が女子学生を対象

妊娠時感染 胎児に影響

学を先天性サイトメガロウイルス症といい、妊娠初期に感染すると危険性が高いとされている。

して、通常これといった症状は起こさない。感染して免疫(抗体)があれば問題ないが、最近妊娠時に初めて感染する女性が増え、胎児への影響が指摘されている。

に調査したところ、感染していない学生は約37%もいました。以前に比べて妊娠時に初感染する女性が増えています」

「現在はワクチンが開発されておらず、妊娠を希望する女性は産婦人科で血液検査を受けて感染の有無を調べてもらうのが第一です。感染しては子どもへの影響は、換、食事、入浴、鼻水やよだれを拭いた後は、せっけんですっきりと手を洗う②口やその周辺にキスしない③おもちゃは清潔に保つ④などに気を付

小頭症や難聴の恐れ

免疫のない女性が妊娠中に感染すると、40%で胎児への感染が起きている。そのうち、15〜20%の赤ちゃんに小頭症や難聴など中枢神経系の異常が見られると報告されている。

こうした赤ちゃんの異

乳幼児からの感染。具体的には第一子が保育園な